

2009年(平成21年)8月15日(土) 北国新聞

北国新聞 ホットニュース「小松航空機製作所」

⇒平成21年8月15日 北国新聞 ホットニュース

私のホームページをベースにして、北国新聞小松支社の中野尚吾記者が詳細に追跡調査された。平成21年8月15日に大きく特集記事として紙面に取り上げられました。しかし、戦時中の航空機産業の情報は最高の軍需機密です。戦後、全て焼却処分されたようです。

工場も戦場と心得 小松航空機製作所

丸谷さん亡母の足跡たどり発見 ⇒平成21年8月15日 北国新聞 紹介

ホットニュース 【8月15日04時11分更新】

「工場も戦場と心得」 終戦間際、小松航空機製作所

小松航空機製作所にあった掲示板を見る北川さん＝小松市八日市町

「工場内も米英打倒の戦場と心得」。太平洋戦争末期に存在した「小松航空機製作所」の心得を記した掲示板が小松市内に残っていた。米軍の空襲激化で日本が焦土と化す中、同市に設立され、終戦とともに姿を消した「軍需工場」だ。同製作所で働いていた亡母をしのぶ男性の調査で、小松が戦闘機生産の一翼を担わされた64年前の秘話が浮かび上がってきた。

この男性は、丸谷（まるたに）烈子さん（昨年11月、86歳で死去）の次男で、岡山市在住の丸谷憲二さん（62）＝小松市出身、岡山民俗学会員＝。烈子さんが亡くなる直前の昨年10月、小松市大領中町1丁目の実家で小松航空機製作所の名が入った赤茶けた封筒を見つけたのを機に調査を始めた。

同製作所は1945（昭和20）年3月ごろ、当時最大の航空機メーカーだった「中島飛行機株式会社」が事実上国営化された「第一軍需工場（こうしょう）」などの協力工場として設立された。丸谷さんの調査の結果、実家の隣接地に工場が建っていたことが判明した。

愛知県などにあった航空機工場が米軍の爆撃に遭い、各地に工場を分散する際、小松は▽海軍航空隊基地がある▽紡績の大工場があり、軍需工場に転用できる一などの理由で移転先に選ばれたとみられる。

同製作所の痕跡や資料は残っていないが、事務所にあった来客向けの掲示板が同製作所関係者の長男である会社役員北川昇三さん（69）＝同市八日市町＝宅に保管されていることが分かった。45年4月ごろ撮影とみられる従業員の集合写真も見つかり、丸谷さんの父八郎さんと、北川さんの父清八さんが写っていた。

小松市の石川県立航空プラザに旧海軍陸上爆撃機「銀河」の木製翼の先端部である主翼端（全長138センチ）が展示されている。同製作所で製造されたとみられ、旧工場が取り壊される際に烈子さんが見つけ、生前寄贈していたことが関係者の証言で明らかとなった。同プラザによると、銀河の現存する唯一の新品部品だという。

セピア色の集合写真は戦争末期、小松でも多くの女性が軍需工場に勤労働員されたことを示している。丸谷さんは「航空機製作所について父母にしっかり聞いておけばよかった。歴史の掘り起こしにつなげたい」と話し、情報提供を求めている。

北川さんは幼いころに愛知県で空襲に遭った体験を振り返り、「戦時中は国のために命をささげた人がいた。今、平和が続くことはありがたい」と静かに話した。

「工場も戦場と心得」

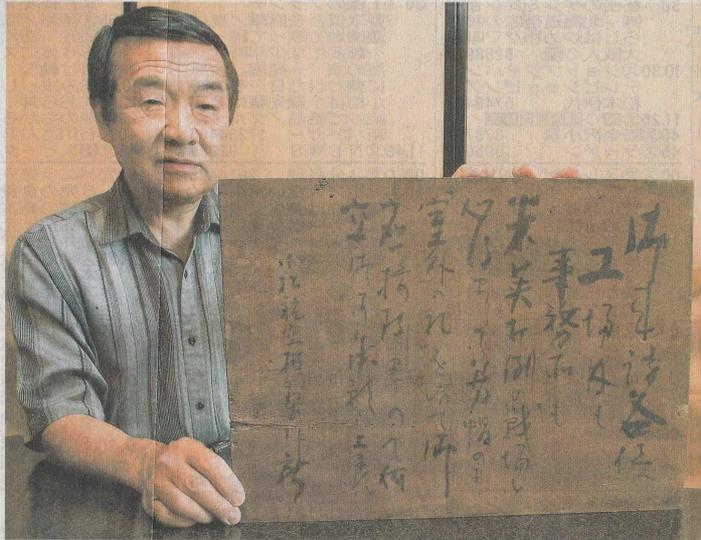
終戦間際 小松航空機製作所

「工場内も米英打倒の戦場と心得」。太平洋戦争末期に存在した「小松航空機製作所」の心得を記した掲示板が小松市内に残っていた。米軍の空襲激化で日本が焦土と化する中、同市に設立され、終戦とともに姿を消した「軍需工場」だ。同製作所で働いていた亡母をしのぶ男性の調査で、小松が戦闘機生産の一翼を担っていた64年前の秘話が浮かび上がってきた。

この男性は、丸谷烈子（丸谷） くなる直前の昨年10月、さん（昨年11月、86歳で、小松市大領中町1丁目の死去）の次男で、岡山市 実家で小松航空機製作所在住の丸谷憲（丸谷）さん（82）の名が入った赤茶けた封筒を見つけたのを機に調査を始めた。

実家隣接地に 同製作所は1945（昭和20）年3月ごろ、当時最大の航空機メーカーの調査の結果、実家の隣接地

掲示板に悲しい秘話



小松航空機製作所にあった掲示板を見る北川さん
＝小松市八日市町

に工場が建っていたことが判明した。愛知県などにあつた航空機工場が米軍の爆撃に遭い、各地に工場を分散する際、小松は▽海軍航空隊基地がある▽紡績の



小松航空機製作所従業員の集合写真
（1945年4月、この撮影）

丸谷さん 亡母の足跡たどり発見

銀河の主翼端を見学する親子連れ
＝小松市の石川県立航空プラザ



旧海軍陸上爆撃機「銀河」 計画ではゼロ戦並みの最高速度で、800kg～1トンの爆弾を搭載できた。当時としては優れた性能だったが、戦況は既に芳しくなく、大きな戦果は挙げられなかった。全長15m、全幅20m、約1千機が製作され、マリアナ沖海戦、沖縄戦、本土防空戦などに投入された。

大工場があり、軍需工場に転用できるなどの理由で移転先に選ばれたとみられる。同製作所の痕跡や資料は残っていないが、事務所にあった来客向けの掲示板が同製作所関係者の長男である会社役員北川昇三さん（69）同市八日市町に保管されていることが分かった。45年4月ごろ撮影とみられる従業員の写真も見つかり、丸谷さんの父八郎さんと、北川さんの父清八さんが写っていた。

「銀河」の主翼端 小松市の石川県立航空プラザに旧海軍陸上爆撃機「銀河」の木製翼の先端部である主翼端（全長1.38m）が展示されている。同製作所で製造された静かに話した。

北川さんは幼いころに愛知県で空襲に遭った体験を振り返り、「戦時中は国のために命をさげた人がいた。今、平和が続くことはありがたい」と話し、情報提供を求めている。

セピア色の集合写真は戦争末期、小松でも多くの女性が軍需工場に勤労働員されたことを示している。丸谷さんは「航空機製作所についてお母にしっかり聞いておけばよかった。歴史の掘り起こしにつなげたい」と話し、情報提供を求めている。